

幼稚園教育要領および保育所保育指針における 領域「人間関係」の改訂の歴史からみた 教育内容の特質について

田村 美由紀

(2017年9月7日受理)

要 旨

子どもが経験するものや人、それらとの関わりのうち重要なものが保育内容である。現在の保育内容5領域、すなわち「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」における「人間関係」は領域の基礎となるものである。本論文では、このような観点に立ち、5領域の中から特に「人間関係」を取り上げ、幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」はどのような意義と特質を持つのか、その歴史的推移も含めて考察する。

キーワード 幼稚園教育要領、保育所保育指針、5領域、保育内容、人間関係

1. はじめに

今日、少子化が進み、家族の中で子どもがきょうだいと関わる機会も、祖父母など多様な人と関わる機会も失われてきている。また、情報化の進展が急速に社会を覆い、子どもの世界を大きく変化させている。幼児をもつ保護者を対象とし、その生活を調査した結果によると、幼稚園・保育園以外で遊ぶ相手としては、「母親」が最も多く、一方で「友達」と遊ぶ子どもは、年々減少の一途をたどっている。遊びでは、公園の遊具や積み木・ブロック、おもちゃ遊びなど、多様な遊びが見られている中で、携帯ゲームをして過ごす子どもが増えてきている。さらに、ほとんど毎日「家族みんなで食事をする」家庭がおよそ半数しかいないことや、習い事をしている子どもは6歳児で8割に達していることも現代社会に生きる子どもの特徴である¹⁾。

これらの背景には、幼稚園・保育園での生活時間が長くなるに伴い、親の子育て意識の変化もあると考えられる。しかしその一方で、子どもの社会的スキル獲得に対するニーズは高く、園での活動に依存する傾向が強まっていると考えられる。園での友だちや保育者との関わりを通して、子どもが学ぶことはたくさんあるが、その経験だけで十分といえるだろうか。例えば、ごく小規模の園では、何年間も顔見知りのメンバーとのみ、関わり続けることとなる。地域との関係が希薄化していく中で、子どもが他者との関わりから学ぶ機会が減ってい

1

るのではないだろうか。子どもの生活のあり方は日本社会の全体の変容を受けて、変わってきた。子ども同士の関係が成り立ちにくくなり、その分、多くの子どもが集まっている幼稚園・保育園の果たす役割が大きくなってきている。

現行の幼稚園教育要領は、1998（平成10）年に改訂され、2000（平成12）年4月1日から施行されており、次期幼稚園教育要領は2018（平成30）年4月1日より施行される。1998年における改訂のポイント²⁾としては、「幼児期の発達を踏まえ、1）基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培うこと、そして、2）豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある子どもを育てることなど基本的な考え方は引き続きが充実発展すること」となっている。さらに、教育内容として、「1）心身の健康を培う活動を積極的に取り入れるとともに、幼児期にふさわしい道徳性を身に付けさせる、2）自然体験・社会体験などの直接的、具体的生活体験を重視、3）幼児期にふさわしい知的発達を促す教育の在り方を示す、4）自我が芽生え、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性に応じたきめ細やかな対応を図る、5）集団とのかかわりの中で幼児の自己実現を図る」と述べられている。また、幼稚園運営においては、「1）幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする、2）子育て支援のために地域の人々に施設や機能を開放して、幼児教育に関する相談に応じるなど、地域の幼児教育のセンターとしての役割を果たすよう努める、3）地域の実態や保護者の要請により、希望者を対象に行う「預かり保育」については、幼児の心身の負担などに配慮する、4）家庭との連携を図りながら、生きる力の基礎を育成する」ことが挙げられている。

次期幼稚園教育要領の改定のポイント³⁾では、基本的な考え方として「教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する『社会に開かれた教育課程』を重視」すること、「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成」すること、「先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成」することが挙げられている。そして、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」のために「何ができるようになるか」を明確化することが求められている。具体的な改善事項としては、伝統や文化に関する教育の充実のために「正月、わらべうたや伝統的な遊びなど我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと」が教育内容に含まれた。その他の重要事項としては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化され、初等中等教育の一貫した学びの充実のための、幼小、小中、中高といった学校段階間の円滑な接続が求められている。

子どもが経験するものや人、それらとの関わりのうち重要なものが保育内容である。園では動植物・砂場・積み木・保育者・友達などの様々な「もの」、「人」、「状況」、さらに言葉や言葉以外の他者とのコミュニケーション、その他の多様な表現や、関わりの中での自分自

身の心やからだとの出会いがある。これらのものをまとめたものが5領域、すなわち「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」である。5領域は遊びや生活の中で深く関連し合っており、中でも「人間関係」は領域の基礎となるものである。しかしながら、これまでの幼稚園教育要領の改訂によって、現場の保育者は様々な講習会への参加を重ねながらも、教育要領の趣旨の理解・解釈が不十分であったり、幼児教育の日本全体の姿をとらえることができず、自身の体験からの解釈をしてしまうなどの課題が挙げられている^{4, 5)}。また、保育内容「人間関係」と小学校教育の内容の関連について、小学校における道徳や特別活動（学級活動）の中に、保育内容の要素が幅広く反映されていることを報告しており、保育内容の実践を幼小連携から捉え直す必要性も報告されている⁶⁾。本論文では、このような観点に立ち、5領域の中から特に「人間関係」に焦点をあて、幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」はどのような意義と特質を持つのか、その歴史的推移も含めて考察する。

2. 領域「人間関係」における意義と特質の変遷

領域「人間関係」は1989（平成元）年版の幼稚園教育要領で新たに設定された領域である。これまで、人との関わりに関する内容は主に領域「社会」で扱われていた。領域「社会」が登場したのは1956（昭和31）年版の幼稚園教育要領である。この幼稚園教育要領は1948（昭和23）年に出された「保育要領」に代わるもので、初めて「領域」という考え方をもとに「健康」「社会」「自然」「言葉」「音楽リズム」「絵画制作」の6つの領域が盛り込まれた。

1948（昭和23）年に出された「保育要領—幼児教育の手引き— 三 幼児の生活指導 4 社会的発達について」の中で、「人間関係」の基礎となる指導内容が示されている（表1）。

表1 保育要領—幼児教育の手引き— 三 幼児の生活指導 4 社会的発達について（昭和23年）

1. 子供に接する者の生活態度は絶対に公明であり正直でなければならない。
2. いつでも静かな快い調子で話をする。
3. お互の権利と特権を尊重してやらなければならない。
4. いつも肯定的な言い方をしたい。
5. 日常生活の日課においては、早く完全に自立させるようにしよう。
6. できる限り子供が自分で選択をするようにさせよう。
7. 子供が泣いたり、かんしゃくを起したりすることでわがままを通すことのないように気をつけたい。
8. めいめいの子供をよく知り、その子供に最も効果的な扱い方をしよう。
9. 子供がまちがったことをしているのを直してやるときにはできるだけ、それがあやまった結果であることを子供にわからせるようにしよう。
10. まちがいを直してやるが必要な場合には、できるだけ早く直してやらなければならない。
11. 子供に何かさせようとする時には、そのことの必要さを確かにしなければならない。
12. 子供に接する者は、いつも子供のほんとうの友だちになるように努めるよう。

次に、1956（昭和31）年に出された「幼稚園教育要領」では、初めて教育内容の領域の区分が示され、人間関係に関わる内容については、「第Ⅱ章 幼稚園教育の内容 2 社会」の中で取り上げられている（表2）。

表2 幼稚園教育要領（昭和31年制定） 第Ⅱ章 幼稚園教育の内容 2 社会

(1) 幼児の発達上の特徴

- 何でもひとりでやりたがるようになる。
- 自分のものと他人のものとの区別が、一応できるようになる。
- 所有欲や独占欲が強い。
- 好きな遊びや作業に熱中する。
- 同じ事がらに対する注意や興味が長続きしない。
- 泣いたり笑ったり、情緒の動揺や変化が激しい。
- 集団の仲間にはいれるようになる。
- ひとに認められたがる。
- 模倣的な行動が多い。
- 試行錯誤的行動が多い。

(2) 望ましい経験

1. 自分でできることは自分です。
 - ひとりで衣服を着たり、脱いだり、はき物をはいたりする。
 - 仕事や遊びに使うものは、自分で用意をしたりかたづけたりする。
2. 仕事をする。
 - 仕事を熱心にする。
 - 仕事をくふうしてする。
 - 仕事を完成する。
 - 仕事をやりそこねたら、またやりなおす。
 - 進んで仕事を手伝う。
3. きまりを守る。
 - 自分の持物、幼稚園の遊具や道具などを、きまった場所に置く。
 - 遊びや仕事のきまりを守る。
 - 幼稚園に来たとき、帰るときにあいさつをする。
 - へやのなかや廊下のきまりに従う。
 - 特別な場所へ行くときは、どこへ行くかを告げ、許しを得る。
 - 教師や友だちとの約束を守る。
 - みちくさをしない。
 - きめられたとおりに、道路を往復する。
4. 物をたいせつに使う。
 - ひとの物を使うときは、許しを得る。
 - 仕事や遊びの道具を、正しくたいせつに使う。
 - 共同の道具や遊具は、みんなで公平に使う。
 - 色紙や絵の具など、材料をむだに使わない。
 - 物を紛失しないように気をつける。
 - 物を紛失したときは、すぐにその旨を届ける。
 - 落とし物は、拾ってすぐに届ける。

5. 友だちと仲よくしたり、協力したりする。
 - 友だちと仲よく遊ぶ。
 - だれとでも仲よくする。
 - 友だちがほめられたら、みんなで喜んであげる。
 - 困っている友だちを見たら、助けてあげる。
 - 親切にしてもらったら「ありがとう」をいう。
 - 友だちの仕事や遊びのじゃまをしない。
 - あやまって迷惑をかけたら、すぐにあやまる。
 - 友だちのあやまちを、互に許し合う。
 - グループに割り当てられた仕事は、みんなで協力する。
 - 仕事や遊びの道具を独占しないで、みんなで順番に使う。
 - リーダーになったり、従う人になったりする。
6. 人々のために働く身近の人々を知り、親しみや感謝の気持をもつ。
 - 幼稚園には、園長その他の教師や、働く人のいることを知る。
 - 自分たちは、親や幼稚園の教師をはじめ、多くの働く人々の世話になっていることを知り、感謝の気持をもつ。
 - 郵便配達・車掌・巡査・農夫など、身近な働く人々に親しみをもつ。
 - 停車場・郵便局・消防署・工場・商店などを見に行く。
 - ままごと・乗物ごっこ・売屋ごっこなどのごっこ遊びをする。
7. 身近にある道具や機械を見る。
 - 自転車・電車・汽車・自動車・飛行機などを見る。
 - 乗物が人や物を運んでくれることを知る。
 - 建造物やいろいろな道具・機械類に関心を寄せる。
8. 幼稚園や家庭や近隣で行われる行事に、興味や関心をもつ。
 - 遠足・運動会・発表会・誕生会・ひな祭りなど、幼稚園の行事に喜んで参加する。
 - 近くの小学校で催される運動会などの行事を見に行ったり、参加したりする。
 - みんなといっしょに国の祝日などを楽しむ。

1964 (昭和39) 年に改訂された幼稚園教育要領においては、内容が簡潔に示されると共に、留意点について示されている (表3)。

表3 幼稚園教育要領 (第1次改訂・昭和39年告示) 第2章 内容 社会

- 1 個人生活における望ましい習慣や態度を身につける。
 - (1) 自分でできることは自分です。
 - (2) 明るくのびのびと行動する。
 - (3) 物をたいせつにする。
 - (4) 規律のある生活をする。
 - (5) 自分の思つたことをすなおに正直にいう。
 - (6) 遊びや仕事を熱心にし、最後までやりとおす。
 - (7) よい悪いの区別ができるようになり、考えて行動する。
- 2 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。
 - (1) 喜んで登園し、先生に親しみ、幼稚園の生活に慣れる。

- (2) 友だちと仲よく遊んだり仕事をしたりする。
 - (3) 父母や先生などに言われたことをすなおにきく。
 - (4) 人に親切にし、親切にされたら礼をいう。
 - (5) 人に迷惑をかけたらすなおにあやまり人のあやまちを許すことができる。
 - (6) 友だちの喜びをいっしょに喜ぶことができる。
 - (7) 先生や友だちと約束したことを守る。
 - (8) 自分の物と人の物の区別ができる。
 - (9) 共同の玩具や用具をたいせつにし、ゆずりあって使う。
 - (10) 遊びのきまりを守る。
 - (11) グループを作って遊びや仕事をする。
 - (12) 学級やグループの中で役割を受け持って仕事をする事ができる。
 - (13) 身近な公共物をたいせつにする。
- 3 身近な社会の事象に興味や関心をもつ。
- (1) 幼稚園や家庭ではみんなが助けあっていることを知り、親しみをもつ。
 - (2) 幼稚園、家庭、近隣などには自分たちのために働いている人がいることを知り、親しみをもつ。
 - (3) 自分たちの生活と特に関係の深いいろいろな公共施設や交通機関などに興味や関心をもつ。
 - (4) いろいろな人が、いろいろな場所で働いて、人々のために物をつくっていることに気づく。
 - (5) 身近な世の中のできごとに興味や関心をもつ。
 - (6) 幼稚園の行事に喜んで参加する。
 - (7) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。

上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。

ア 1 に関する事項の指導にあたっては、特に家庭との連絡を密にし、幼児の年齢や発達
の程度に応じて、適切な機会をとらえて、個人生活における基本的な習慣や態度を身に
つけ、しだいに自主および自律の精神の芽ばえをつちかうようにすること。

イ 2 に関する事項の指導にあたっては、入園当初においては特に幼稚園に慣れることを
中心として指導し、しだいにのびのびと行動できるように導き、さらに集団の中におい
ていろいろな経験や活動をさせて、社会生活に必要な習慣や態度を身につけ、協同の精
神の芽ばえをつちかうとともに、教師、父母、兄弟などの目上の人に対する敬愛の念を
養うようにすること。

ウ 3 に関する事項の指導にあたっては、幼児に関係深い人々に対し親しみや感謝の念を
もたせるようにし、また、その地域の実態に応じて、幼児に関係深い公共施設や交通機
関等に興味や関心をもたせ、それらについての理解の芽ばえをつちかうようにすること。

エ 1、2 および 3 に関する事項の指導にあたっては、幼児の経験や活動がいずれにもか
たよらないようにするとともに、いずれの場合においても道徳性の芽ばえをつちかうよ
うにすること。

1989（平成元）年に改訂された幼稚園教育要領（第2次改訂）では、教育内容の領域の区分が5つとなり、初めて「人間関係」という領域が示された（表4）。

表4 幼稚園教育要領（第2次改訂・平成元年告示） 第2章 ねらい及び内容 人間関係

この領域は、他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う観点から示したものである。

1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

2 内容

- (1) 喜んで登園し、先生や友達に親しむ。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (6) 友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを知る。
- (7) 友達とのかかわりの中で言っではいけないことやしてはいけないことがあることに気付く。
- (8) 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付く。
- (9) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- (10) 自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

3 留意事項

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働きかけることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- (2) 集団生活の中で十分に他の幼児や身近な人々と触れ合い自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ共感し合う体験を通して、人とかかわることの楽しさや大切さを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親の愛情に気付き、親を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

幼稚園教育要領の「人間関係」領域は、1989（平成元）年3月の改訂によって、従来の「健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画制作」の「6領域」から、「健康、人間関係、環境、言葉、表現」という「5領域」の一つとなった。1998（平成10）年12月の第3次改訂、2008（平成20）年3月の第4次改訂においても、幼稚園教育要領の領域は、この「5領域」が維持されている。1998（平成10）年版、2008（平成20）年版の幼稚園教育要領における「人間関係」領域の内容の変遷を、表5に示す。

表5 幼稚園教育要領における「人間関係」領域の内容の変遷 (第3次改訂・第4次改訂)

1998 (平成10) 年版	2008 (平成20) 年版
<p>人間関係 〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) <u>進んで身近な人とかかわり</u>、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>(3) 自分でできることは自分でする。</p> <p>(4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>(5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>(6) 友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>(7) <u>友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</u></p> <p>(8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>(9) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。</p> <p>(10) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p> <p>(11) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。</p> <p>(12) 高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p>	<p>人間関係 〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) <u>身近な人と親しみ、かかわりを深め</u>、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>(3) 自分でできることは自分でする。</p> <p>(4) <u>いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</u></p> <p>(5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>(7) 友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>(8) <u>友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したり</u>などする。</p> <p>(9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>(10) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。</p> <p>(11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p> <p>(12) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。</p> <p>(13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p>

3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- (2) 幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。
- (3) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤(かっとう)やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- (4) 幼児の生活と関係の深い人々と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、高齢者をはじめ地域の人々などに親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるよう

3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- (2) 幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。
- (3) 幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようになるとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- (4) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤(かっとう)やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。
- (5) 集団の生活を通して、幼児が人とのかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、

<p><u>にすること。また、生活を通して親の愛情に気付き、親を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</u></p>	<p><u>自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。</u> (6) <u>高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。</u> <u>また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</u></p>
---	--

表4および5に示したように、2008（平成20）年版の内容項目「(2) 自分で考え、自分で行動する。」「(3) 自分でできることは自分です。」「(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。」「(12) 共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う。」は、1989（平成元）年版以降、共通した記述となっている。

1989（平成元）年版の内容項目「(1) 喜んで登園し、先生や友達に親しむ。」「(6) 友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを知る。」「(8) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付く。」「(10) 自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。」に関しては、平成10年版から用語の変更や用語が追加されている。

1998（平成10）年版から新たに追加された内容項目は、「(7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。」「(8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。」「(9) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。」である。このうち、「(8) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。」は、平成元年版では「(7) 友達とのかかわりの中で言うてはいけないことやしてはいけないことがあることに気付く。」となっていたものが、「よいこと」「悪いこと」を強調した記述となっている。

2008（平成20）年版では、1998（平成10）年版の「(7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。」の後半部「物事をやり遂げようとする気持ちをもつ」は同一であるが、1998（平成10）年版の「友達と一緒に」が「いろいろな遊びを楽しみながら」と、必ずしも友達を重視しない記述となっている。なお、2008（平成20）年版から新たに追加された内容項目は、「(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。」である。

3. 幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」

保育所保育指針の「人間関係」領域は、1989（平成元）年3月の幼稚園教育要領改訂に伴って、1990（平成2）年3月の改訂から、主として教育的な側面に関して「健康、人間関係、環境、言葉、表現」という「5領域」の一つとなった。「人間関係」領域の保育内容の項目は、1990（平成2）年版及び1999（平成11）年10月に改訂された保育所保育指針においては3歳児・4歳児・5歳児・6歳児ごとではなく一括して示されている。2008（平成20）年版の保育所保育指針の「人間関係」の内容項目をもとに、1999（平成11）年版の保育所保育指針における「発達過程区分」ごとの「人間関係」領域の内容項目を位置づけてみると、表6のようになる。

1999（平成11）年版の3歳児の内容項目「(2) 友達とごっこ遊びなどを楽しむ。」は、2008（平成20）年版の内容項目に「①安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。」と「模倣して遊ぶ」という記述があるために、ここに位置付けた。また、1999（平成11）年版の3歳児の内容項目「(5) 保育士の手伝いをすることを喜ぶ。」および4歳児の内容項目「(6) 手伝ったり、人に親切にすることや、親切にされることを喜ぶ。」は、安定した関係がなければ実現が難しいと考えられるため、2008（平成20）年版の内容項目「②保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。」に位置付けた。さらに1999（平成11）年版の5歳児の内容項目「(4) 友達と一緒に食事をし、食事の仕方が身に付く。」は、自立に関わる項目のため、2008（平成20）年版の内容項目「④自分でできることは自分でする。」に位置付けた。

一方、2008（平成20）年版の幼稚園教育要領と保育所保育指針における「人間関係」領域の内容項目及びねらいを比較して示す（表7）と、「人間関係」領域の内容項目等では、2008（平成20）年版の保育所保育指針には「①安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。」「⑭外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。」があるが、幼稚園教育要領にはない。また、幼稚園教育要領では「(4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。」「(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。」と2つにわかれている内容項目が、保育所保育指針においては「⑧友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見いだし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。」とまとめられている。

表6 2008 (平成20) 年版保育所保育指針と1999 (平成11) 年版保育所保育指針における「人間関係」領域の内容項目の位置づけ

2008 (平成20) 年版	1999 (平成11) 年版			6 歳児
	3 歳児	4 歳児	5 歳児	
① 安心のできる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。	(1) 保育士に様々な欲求を受け止めてもらい、保育士に親しみを持ち安心感を持って生活する。 (2) 友達とごっこ遊びなどを楽しむ。	(1) 保育士や友達などとの安定した関係の中で、いきいきと遊ぶ。	(1) 保育士や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ。	(1) 保育士や友達などとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。
② 保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。	(5) 保育士の手伝いをすることを喜ぶ。	(6) 手伝ったり、人に親切にすることや、親切にされることを喜ぶ。		
③ 自分で考え、自分で行動する。		(4) 保育士の言うことや友達のことを理解して行動する。		
④ 自分でできることは自分です。			(4) 友達と一緒に食事をし、食事の仕方が身に付く。	
⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。			(6) 友達への思いやりを深め、一緒に喜んで悲しんだりする。	
⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。		(2) 自分のしたいと思うこと、してほしいことをはっきり言うようになる。	(3) 自分の意見を主張するが、相手の意見も受け入れる。	(3) 進んで自分の希望や意見、立場を主張したり、一方で相手の意見を受けたりする。
⑦ 友達の良さに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。				

<p>⑧ 友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見いだし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。</p>			<p>(5) 友達への親しみを広げ、深め、自分たちでつくったきまりを守る。</p>	<p>(5) 自分で目標を決め、それに向かって友達と協力しやり遂げようとする。</p>
<p>⑨ 良いことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p>		<p>(7) 他人に迷惑をかけたら謝る。</p>	<p>(7) 人に迷惑をかけないよう人に立場を考えて行動しようとする。</p>	<p>(6) 友達との関わりの中でよいことや悪いことがあることがわかり、判断して行動する。</p>
<p>⑩ 身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。</p>	<p>(7) 年上の友達と遊んでもらったり、模倣して遊んだりする。</p>	<p>(5) 身の回りの人に、いたりや思いやりの気持ちを持つ。 (9) 年下の子どもにも親しみを持って、年上の子どもとも積極的に遊ぶ。</p>	<p>(9) 異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持つ。</p>	<p>(8) 自分より年齢の低い子どもに、自ら進んで声かけをして誘い、いたわって遊ぶ。</p>
<p>⑪ 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気がつき、守ろうとする。</p>	<p>(3) 遊具や用具などを貸したり借りたり、順番を待ったり交代したりする。 (4) 簡単なきまりを守る。</p>	<p>(3) 友達と生活する中で、きまりの大切さに気づき、守ろうとする。</p>	<p>(2) 簡単なきまりをつくり出したたりして、友達と一緒に遊びを発展させる。</p>	<p>(2) 集団遊びの楽しさがわかり、きまりを作ったり、それを守ったりして遊ぶ。 (4) 友達との生活や遊びの中できまりがあることの大切さに気づく。</p>
<p>⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使用。</p>	<p>(6) 遊んだ後の片づけをすすめるようになる。</p>	<p>(8) 共同のものを大切にし、譲り合って使う。</p>	<p>(8) 共同の遊具や用具を譲り合って使う。</p>	<p>(7) 共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。</p>
<p>⑬ 高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。</p>	<p>(8) 地域の人と触れ合うことを喜ぶ。</p>	<p>(10) 地域のお年寄りなど身近な人の話を聞いたり、話しかけたりする。</p>	<p>(10) 地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちを持つ。</p>	
<p>⑭ 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。</p>		<p>(11) 外国人の人など、自分とは異なる文化を持った人の存在に気づく。</p>	<p>(11) 外国人の人など自分とは異なる文化を持った様々な人に関心を持つようになる。</p>	<p>(9) 外国人の人など自分とは異なる文化を持った様々な人に関心を持ち、知ろうとするようになる。</p>

表7 2008(平成20)年版幼稚園教育要領と保育所保育士指針における「人間関係」領域の比較

幼稚園教育要領	保育所保育指針
<p>他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と<u>かかわる</u>力を養う。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 身近な人と親しみ、<u>かかわり</u>を深め、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) <u>先生</u>や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>(3) 自分でできることは自分でする。</p> <p>(4) <u>いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</u></p> <p>(5) 友達と<u>積極的にかかわりながら</u>喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>(8) 友達と<u>楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したり</u>などする。</p> <p>(9) <u>よいこと</u>や悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>(10) <u>友達とのかかわり</u>を深め、思いやりをもつ。</p> <p>(11) 友達と楽しく生活する中で<u>きまりの大切さ</u>に気付き、守ろうとする。</p> <p>(12) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。</p> <p>(13) 高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p>	<p>他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と<u>関わる</u>力を養う。</p> <p>(ア) ねらい</p> <p>① 保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>② 身近な人と親しみ、<u>関わり</u>を深め、愛情や信頼感を持つ。</p> <p>③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>(イ) 内容</p> <p>① 安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとする。</p> <p>② 保育士等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>③ 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>④ 自分でできることは自分でする。</p> <p>⑤ 友達と<u>積極的にかかわりながら</u>喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>⑦ 友達の<u>良さ</u>に気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>⑧ <u>友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。</u></p> <p>⑨ <u>良いこと</u>や悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>⑩ <u>身近な友達との関わり</u>を深めるとともに、<u>異年齢の友達など、様々な友達との関わり</u>、思いやりや親しみを持つ。</p> <p>⑪ 友達と楽しく生活する中で<u>決まりの大切さ</u>に気付き、守ろうとする。</p> <p>⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。</p> <p>⑬ 高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。</p> <p>⑭ 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。</p>

4. まとめと現在の動向

次期「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」は、2017（平成29年）に告示され、2018（平成30年）施行が決定している。併せて「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の見直しも進められている。これらには、共通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿：①思考力の芽生え、②自然との関わり・生命尊重、③数量・図形、文字等への関心・感覚、④言葉による伝え合い、⑤豊かな感性と表現、⑥健康な心と体、⑦自立心、⑧協同性、⑨道徳性・規範意識の芽生え、⑩社会生活との関わり）」が明記される予定である（表8）。

表8 2018（平成30）年版幼稚園教育要領 第1章 総則 第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。
 - (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
 - (2) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
 - (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
- 2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。
- 3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。
 - (1) 健康な心と体
幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
 - (2) 自立心
身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
 - (3) 協同性
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
 - (4) 道徳性・規範意識の芽生え
友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
 - (5) 社会生活との関わり
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜び

を感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

10の姿とは、5領域の中でとりわけ年長児にその成長が期待される内容を整理したものであるが、0～4歳からのそれぞれの育ちを通して実現し、時期にふさわしい指導の積み重ねがこの姿につながっていくことに留意する必要がある。さらに、保育所保育指針の改訂の方向としては、乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載内容が充実されることになり、そこでは3歳以降の成長の姿についても意識しながら、保育内容5領域を総合的にとらえ、保育を進めることとなる。

16 10の姿は5領域によりつつ、知的な育ちと社会性の育ち、さらに非認知的な面の育ちや体力・表現力の育ちなど、多様な子どもの成長のあり方に配慮している。知的な面では、「思考力の芽生え」と「数量・図形、文字等への関心・感覚」、さらに「言葉による伝え合い」が挙げられ、社会性としては「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」が示される。非認知面としては「自立心」がある。また、体力面として「健康な心と体」として心身の両面について述べられており、表現力としての「豊かな感性と表現」では協同

性や思考力との関連も言及されている。

2017（平成29）年3月に告示された幼稚園教育要領と2008（平成20）年版の幼稚園教育要領における「人間関係」領域の内容の変遷を、表9に示す。

表9 幼稚園教育要領における「人間関係」領域の内容の変遷（第4次改訂・第5次改訂）

2008（平成20）年版	2017（平成29）年3月告示版
<p>人間関係 〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>(3) 自分でできることは自分です。</p> <p>(4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p> <p>(5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。</p> <p>(9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>(10) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。</p> <p>(11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p>	<p>人間関係 〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と<u>関わる</u>力を養う。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 身近な人と親しみ、<u>関わり</u>を深め、<u>工夫</u>したり、<u>協力</u>したりして<u>一緒に活動する楽しさを味わい</u>、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>(3) 自分でできることは自分です。</p> <p>(4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p> <p>(5) 友達と積極的に<u>関わり</u>ながら喜びや悲しみを共感し合う。</p> <p>(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。</p> <p>(9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。</p> <p>(10) 友達との<u>関わり</u>を深め、思いやりをもつ。</p> <p>(11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p>

- (12) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- (2) 幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児はその中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。
- (3) 幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- (4) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤(かつとう)やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

- (12) 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- (1) 教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- (2) 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。
- (3) 幼児が互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- (4) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児との関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

<p>(5) 集団の生活を通して、幼児が人とのかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。</p> <p>(6) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人とかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>	<p>(5) 集団の生活を通して、幼児が人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。</p> <p>(6) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>
---	---

表9において示したように、2017（平成29）年告示版の内容項目については、「かかわり」が「関わり」、そして「みんな」が「皆」と表記が変更になった以外は、共通した記述となっている。その他、ねらいにおける「(2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。」や内容の取扱いにおける「(1) ……試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。」「(2) ……その際、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。」に関しては、新たに加筆修正がされている。修正点は、より具体的な子どもの行動が協調した記述となっている。

これに伴い、今後数年間は養成校における保育内容5領域の教授内容が大きく変化すると思われる。人間関係においても、社会性を中心とした10の姿に基づき、指導計画を見直し、個々の子どもの成長のようすを検討していく必要がある。そのためには、一連の活動にさまざまな姿を実現するように援助していくことが望まれる。また、その姿に100%達成するのではなく、その姿に向かって歩んでいく子どもを支え、援助する保育者を指導していかなければならない。この背景には、就学前の保育内容が小学校教育の準備として理解され、小学校教育（特に教科教育）の内容を前倒しで行うことが志向されている状況がある。就学前後の連携、接続の観点から考えると、保育と小学校教育の間に双方向性を持ち、豊かな人間関係を構築するための実践力を身に付ける必要がある。他者をお互いに生かそうとする真摯な対応を追及していく「人間力」、すなわち、かけがえのない自分自身（自尊感情）と同じく、かけがえのない他者との関係（他者理解）を大切にしようとする自覚に基づいて活動する時

に、その活動を誘発し持続させようとする能力や態度が子どもにとって不可欠である。この人間力を養うことによって、集団の中で個を確立するプロセスの形成が容易となるため、保育者は、子どもたちに集団における自己の重さを積極的に伝える必要がある。

引用文献

- 1) ベネッセ総合教育研究所「第5回 幼児の生活アンケート レポート [2016年]」、<http://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4949>
- 2) 文部科学省「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領改訂のポイント」、2011年2月、http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1234773_001.pdf
- 3) 文部科学省「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」、2017年4月、http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2017/06/16/1384662_2.pdf
- 4) 森元真紀子 川上道子、「保育内容に関する研究 (I) -平成元年幼稚園教育要領改訂に焦点を当てて-」『中国学園紀要』第7号、2008、p.109-119.
- 5) 森元真紀子 川上道子、「保育内容に関する研究 (III) -平成元年(1989)以降の幼稚園教育要領における「領域」に焦点を当てて-」『中国学園紀要』第9号、2011、p.53-62.
- 6) 伊勢正明、「保育内容「人間関係」と小学校教育の内容の関連に関する一考察」『帯広大谷短期大学紀要』第51号、2014、p.87-97.

参考文献

- 1) 民秋言編『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』(第2版)、萌文書林、2016.
- 2) 文部省『保育要領-幼児教育の手びき-』、1948.
- 3) 文部省『幼稚園教育要領』、1956.
- 4) 文部省『幼稚園教育要領』、1964.
- 5) 文部省『幼稚園教育要領』、1989.
- 6) 文部省『幼稚園教育要領』、1998.
- 7) 文部科学省『幼稚園教育要領』、2008.
- 8) 厚生労働省『保育所保育指針』、2008.
- 9) 文部科学省『幼稚園教育要領』、2017.